

令和4年度
教育委員会の権限に属する事務の管理
及び執行状況についての点検及び評価
(令和3年度対象)

令和4年9月
荏田町教育委員会

目 次

1. はじめに	2
2. 点検及び評価の概要について	2
3. 教育委員会の活動状況について	4
4. 教育施策の推進状況について	
1-1 学校教育の充実	9
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	
2 ICT活用教育による学びの質の向上	
3 教育環境の整備	
4 学校・家庭・地域の連携と協働	
5 多様性を踏まえた教育の実践	
1-2 生涯学習の充実と文化の振興	23
1 学習機会の充実	
2 生涯スポーツの推進	
3 図書館サービスの充実	
4 文化財の保護と活用	
1-3 子ども・子育て支援の充実	35
1 放課後児童健全育成事業の充実	
5. 学識経験者意見	36
6. 資料等	
・地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	42
・荻田町教育行政の仕組み、町の教育施設等	43

1. はじめに

このたび、荊田町教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に定めるところにより、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

この点検及び評価は、令和3年度における「教育委員会の活動状況」及び「教育施策の推進状況」に関して実施したものであり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、教育行政の推進状況に関する町民への説明責任を果たすことを目的としています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、町民に公表することとしています。

また、この点検及び評価の結果を今後の教育委員会活動や教育施策に十分に反映させることで、本町における教育施策が町民の皆様方の御理解の下に適切・円滑に推進できますよう、取組の強化を図ってまいります。

2. 点検及び評価の概要について

1 点検及び評価の対象

本報告書では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、「教育委員会の活動状況」及び「教育施策の推進状況」についての点検・評価の結果を掲載しています。

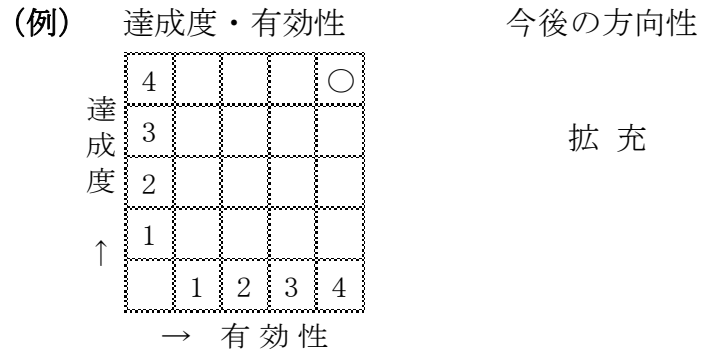
このうち「教育施策の推進状況」については、町の教育大綱である「第5次荊田町総合計画」（前期基本計画：令和3年～7年度）に掲げられた基本事業を推進するにあたって教育委員会が実施した令和3年度の事務事業や取組みを中心に点検・評価を行いました。

2 点検及び評価の方法並びに評価の観点

事業等の点検及び評価に際しては、施策の必要性や効率性、事業の達成度や有効性といった観点からわかりやすく客観的な評価がなされるよう配慮しています。また、併せてこれらの点検及び評価を通じて、事業自体に関する今後の町の方向性を示すこととしています。

教育委員会の自己評価は、次の「評価基準」で評価しています。

①達成度		②有効性		③今後の事業の方向性
計画どおり達成できたかどうか		施策や運営方針、総合計画の目標成果のために有効であったかどうか		必要性や効率性、達成度や有効性等から今後の事業の方向性を総合的に判断
4	十分達成できた	4	非常に有効であった	拡 充
3	概ね達成できた	3	有効であった	継 続
2	やや不十分であった	2	あまり有効でなかった	改 善
1	不十分であった	1	有効でなかった	廃 止



3 教育に関して学識経験を有する者の知見の活用について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項が規定している「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については教育委員会が行った「教育施策の推進状況」の点検及び評価について、外部の教育関係者からの意見を求める方式を取っています。

なお、今回お願いした外部評価委員は次の3名の方々です。

- ①元小学校校長 井上 宣江 氏
- ②西日本工業大学教授 田代 武博 氏
- ③九州工業大学広報室（前高等学校校長） 橋内 政和 氏

3. 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会の概要

(1) 教育委員会の位置付け

教育委員会は、町長から独立した行政委員会として位置付けられ、本町教育行政における重要事項や基本方針は、町長が議会の同意を得て任命した教育長及び4人の委員で組織する教育委員会において決定され、教育長の指揮の下に、教育委員会の事務局等が具体的な事務を執行しています。

(2) 教育委員会の所管事務

教育委員会は、学校教育、社会教育、学術、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として設置されています。

(3) 教育長及び委員の職務

教育長及び委員は、教育委員会会議に出席し教育行政の基本方針や重点施策について協議するほか、それらに関する重要事項等を審議しており、そのために教育現場の視察、意見・要望等聴取、教育関係の各種行事への出席、委員研修会への参加等を行っています。

こうした活動を通じて、教育における政治的中立性及び継続性・安定性を確保するとともに、広く町民の意向を反映した責任ある教育行政の実現を図っています。

(4) 教育長及び委員の構成

教育長及び委員は次の5人です。委員には保護者も含まれています。教育長の任期は3年、委員の任期は4年であり、再任されることができます。

職名	氏名	委員としての任期	職業
教育長	井上三津子	R 3.11.15～R 6.11.14(2期目)	元小学校長
委員 (教育長職務代理)	沖永圭子	R 2. 4. 1～R 5.10. 3(1期目)	元小学校長
委員	下野孝次	R 2. 6. 1～R 6. 5.31(1期目)	会社員
委員	土屋隆之	R 3. 3.27～R 7. 3.26(1期目)	医師
委員	横尾直人	R 4. 3.27～R 8. 3.26(1期目)	住職

(令和4年3月31日現在)

2 令和3年度 活動実績

(1) 教育委員会の活動

項 目	活動状況・実施状況
1. 教育委員会会議の運営	<p>荇田町教育委員会会議規則に基づき、定例会を9回開催し、教育行政施策や各協議事項に対する議論を行った。</p> <p>また、臨時会を4回開催し、放課後児童クラブ指定管理者の指定など、緊急を要する案件の審議等を行った。</p>
2. 教育委員会会議の公開	<p>会議は原則公開としており、町掲示板への告示とホームページによる開催案内を行った。</p> <p>会議結果については、ホームページでお知らせするとともに、議事録作成を行った。傍聴者及び議事録公開請求は無かった。</p>
3. 教育委員会と首長との連携	<p>総合教育会議を1回開催し、町の教育大綱を確認するとともに、次年度予算編成方針及び重点教育施策などについて町長と協議調整を図った。</p>
4. 教育委員の自己研鑽	<p>京築地区の研修会に参加し、荇田町の特色ある教育施策「かんだっ子の新しい教育の推進」について発表した。全国研修会や県の研修会はオンラインでの開催で参加することができた。</p>
5. 学校その他教育施設に対する支援等	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校行事や社会教育行事の中止、規模が縮小される中、学校訪問や各施設訪問は自粛した。年度末に、小中学校の卒業証書授与式、及び与原小学校増築教室・学童保育施設内覧会には参加できた。</p>

○実 績

- ① 教育委員会会議の開催については、定例会のほか臨時会を積極的に開催し、活発な議論を行いました。会議の議題については、前年度と同様に、事前に送付された会議資料等により議題への理解を深めた上で会議に臨んでおり、事務局提案の原案についても町民の視点に立った議論を行いました。議案を承認する場合も、施策の改善点や要望などを明確に示しました。
- ② 教育施策などの重要案件や条例・規則の制定、懸案事項等について、会議の議題として十分な議論を行いました。

○課 題

- ① 教育委員会会議のさらなる活性化を図るとともに、町民の意向を反映した教育行政を実現するために、関係者との意見交換に努めるなど、教育現場の実態把握等を継続して行う必要があります。
- ② 教育委員会活動が町民により一層理解され関心を持ってもらうために、今後も継続して積極的な情報発信等に努めていく必要があります。

○ 対応

- ① 教育現場の実態把握や関係者との意見交換の拡充を図るため、視察や情報交換を充実するほか、関係団体が主催する協議会や研修会等に積極的に参加します。
- ② 教育委員会会議の結果については、原則としてホームページで掲載します。また、町民に分かりやすいホームページとなるよう構成や内容を整理し、速やかな情報更新を行い、今後も教育委員会活動について積極的に情報を発信します。

(2) 教育委員会が管理・執行した事務

項 目	内 容
1. 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苺田町教育大綱に基づく令和3年度の小中学校教育施策、生涯学習重点事項について確認を行った。 ・ 教育委員会年間予定事業について確認を行った。
2. 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	<p>法改正や教育施策の内容に応じて教育委員会規則等の整備を行い、円滑な教育行政推進を行った。</p> <p>改正分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苺田町立小中学校管理規則の一部改正 ・ 苺田町立図書館職員の勤務時間等に関する規則の一部改正 ・ 苺田町教育委員会事務局組織規則の一部改正 ・ 苺田町町費負担教職員選考委員会規則の一部改正 ・ 苺田町立小中学校教育問題審議会運営規則の一部改正 ・ 苺田町教育委員会公印規程の一部改正 <p>新規制定分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苺田町立小中学校教諭等の標準的な職務の内容及びその例並びに教諭等の職務の遂行に関する規程 ・ 苺田町学校運営協議会規則

<p>3. 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること</p>	<p>法改正や教育施策の内容に応じた条例や予算などの改正や原案を決定し、円滑な教育行政の推進を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与原小学校校舎・児童クラブ増築工事請負契約の締結 ・令和3年6月議会定例会補正予算 ・教育委員会事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書 ・令和3年9月議会定例会補正予算 ・令和3年11月議会臨時会補正予算 ・与原小学校放課後児童クラブ指定管理者の指定 ・苅田町教育支援委員会条例の一部改正 ・令和3年12月議会定例会補正予算 ・工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更 ・令和4年度当初予算 ・令和4年3月議会定例会補正予算 ・苅田町放課後児童クラブ設置条例の一部改正
<p>4. 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織見直しでは、教育総務課の建築営繕担当が財政課施設管理室へ移管された。 ・事務分掌の見直しでは、放課後児童健全育成に関する事務が子育て・健康課より生涯学習課へ移管された。
<p>5. 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の教職員人事に際し、学校長の具申を受け、勤務年数、実績、適正配置等を勘案し京築教育事務所に内申を行った。
<p>6. 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員等の任命又は委嘱に関すること</p>	<p>各種委員会の委員等の候補者を承認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苅田町教育支援委員会委員 ・苅田町社会教育委員 ・苅田町スポーツ推進審議会委員 ・苅田町教育委員会外部評価委員会委員 ・苅田町立学校給食委員会委員 ・学校給食センター運営委員会委員 ・史跡御所山古墳調査指導委員会委員 ・苅田町立公民館運営審議会委員 ・苅田町スポーツ推進委員 ・苅田町文化財保護審議会委員

<p>7. 教科用図書の採択に関する事</p>	<p>・採択はなかった。</p>
<p>8. 通学区域を設定し、又は変更すること</p>	<p>・設定や変更はなかった。</p>
<p>9. 文化財を指定し、又は指定を解除すること</p>	<p>・指定や解除はなかった。</p>
<p>10. 請願、陳情、訴訟及び異議の申し立てに関する事</p>	<p>・片島小学校区区長会と同校期成会の連名で、町の「複式学級編制基準の見直し」等について陳情書が提出された。</p>

4. 教育施策の進捗状況について

〔教育委員会が管理・執行を教育長に委任した事務〕

1-1 学校教育の充実 (学校教育課)

目指す姿 子どもたちが確かな学力とたくましい心身を育み、学校で楽しく学んでいます。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性	
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(1) 学力の向上を目指す授業づくりの推進	<p>① 小・中学校への町雇用教員・学習支援員の配置による授業サポート</p>	<p>学力向上のために、各学校1名、計8名の教育活動支援員を配置し、少人数による指導や専科指導等の指導体制を工夫した取組を行った。また、片島小学校には複式学級を解消するために1名の町雇用教員を配置し、教育活動支援員も1名増員した。与原小学校には感染症対策補助事業により、1名の学習支援員を配置した。</p>		<p>拡充</p> <p>児童生徒の学力向上のため、各種支援員の配置とその増員、専科指導体制の工夫などきめ細かな支援環境が整備されている。今後も、学力向上のためのサポートの充実をお願いしたい。</p>
	<p>② 小・中一貫した授業モデルの活用推進を図る学力向上推進プロジェクト会議の定期的開催</p>	<p>荇田中学校区では生徒指導の観点を取り入れた授業づくりを、新津中学校区ではインクルーシブ教育の観点を取り入れた授業づくりを行い、学力向上プロジェクト会議等でその成果を交流することができた。プロジェクト会議では、主幹教諭等が学力調査結果についても検討し、荇田町の課題から今後の町全体の学力底上げのための方策を協議することができた。</p>		<p>拡充</p> <p>学力向上プロジェクト会議の定期的開催は、各学校における学力向上の組織づくりの支援に有効であると考えます。</p>	

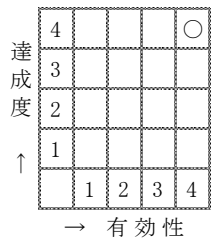
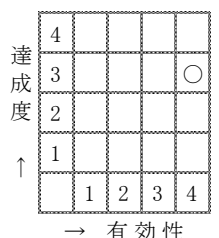
評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(2) 教師の資質・指導力の向上	① 学力検証改善サイクルの確立と学力向上プランの作成	全国学力・学習状況調査や県学力テストの結果分析を行い、各学校訪問によるヒアリングを通して短期間でPDCAサイクルを回すことで、学力向上プランの見直し・改善が図られ、授業改善を進めることができた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	学期毎にPDCAサイクルを回すことはプランの見直し・改善ばかりでなく教職員の意識改革に繋がっていきと考える。手堅い取り組みになっていると思う。
		4																													
		3				○																									
		2																													
1																															
	1	2	3	4																											
② 指導力の向上を図る小中合同研修会の実施	町独自の研修会として、町内他校の授業を伴う校内研修への参加を奨励し、延べ80名(研究発表会を除く)が参加した。この研修を通して自校の研究教科でない授業づくりについて学んだり、小中一貫の視点で授業づくりを考えたり、幅広い視野からの授業力の向上を図ることができた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4			○		3					2					1						1	2	3	4	拡充	他校の授業を見ることは様々な点で授業づくり、授業力向上に大いに役立つ。苺田独自の研修会としてぜひ続けていただきたい。		
4			○																												
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 特定教科研究指定校の継続と研究成果の公表	平成17年度より特色ある学校づくりのために研究領域の指定を行ってきた。それぞれの学校で研究の深まりが見られ、研究発表会や町教職員小中合同研修会を通して研修の成果を公表するとともに共有した。今後は、町内の学校が受けている県指定の事業の推進等も共有し、一層の横展開を図る必要がある。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	特色ある学校づくりのために研究指定を行い、各学校で取組み、その成果を共有できたことは有益であったと考える。苺田町独自の取組であり、今後も継続・発展することを期待する。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
④ キャリアステージに応じた研修の実施	若年教員の増加に対応して、校内OJTだけでなく、町指導主事やクラスター教員を活用した計画的な研修を行うことができた。また、ミドルリーダーを育成するために、ICT指導者研修や学力向上プロジェクト等を活用して、適切な指導・助言を行うことができた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	課題である若年教員の増加とその育成、ミドルリーダーの育成を計画的に実践され、一定の成果を収めていることは評価できる。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																																	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																																		
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(3) 生きる力の育成	① 規範教育の実施と道徳心の育成	各学校が「学校のきまり」等を作成し、学校だよりや入学説明会等の場で、児童生徒だけでなく、保護者への周知も行った。また、苧田小学校、苧田中学校では、県の指定を受けて地区別道徳教育研究協議会を開催し、各校から教員が参加して公開授業を参観し、道徳科の指導について協議を行うことができた。	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td></td><td colspan="5">→ 有効性</td></tr> </table>	達成度	4					3			○		2					1				↑		1	2	3	4		→ 有効性					継続	子どもたちや保護者の声を参考に校則の見直しを図り、周知させていったことは、子どもたちの規範意識の醸成、安心できる学校づくりに繋がり、高く評価したい。
		達成度	4																																			
			3			○																																
	2																																					
	1																																					
↑		1	2	3	4																																	
	→ 有効性																																					
② 体力向上のための一校一取組の推進と体力向上プランの活用	各学校が体力向上プランを作成し、新型コロナウイルス感染症のため実施できる教育活動の制限等もある中で、体育科の授業等で様々な工夫を行い、児童生徒の体力向上に努めた。特に、一校一取組として、体育の授業以外で行った小学校の縄跳びや持久走等の取組は、体力向上に有効であった。	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td></td><td colspan="5">→ 有効性</td></tr> </table>	達成度	4					3		○			2					1				↑		1	2	3	4		→ 有効性					拡充	感染症対策のために集団での体育が制限される中、児童生徒が楽しく体力向上を目指すことができる取り組みを実施している。今後も大いに発展させてほしい。		
達成度	4																																					
	3		○																																			
	2																																					
	1																																					
↑		1	2	3	4																																	
	→ 有効性																																					
③ 学校生活満足度調査(Q-U調査)を生かした学級経営の改善	全学校でQ-U調査を実施し、児童生徒の状況把握を行った。学級満足度は全国平均値を上回っており、学級指導の向上が見られた。本年度も1回の実施であったが、子どもの変容を確認するために年2回の実施が必要と考える。	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td></td><td colspan="5">→ 有効性</td></tr> </table>	達成度	4					3		○			2					1				↑		1	2	3	4		→ 有効性					拡充	調査を通じて「子どもの変容」を読み取るという考え方は大切だと考える。今後、同一年度内だけでなく、経年変化を分析するような活用法もぜひ検討していただきたい。		
達成度	4																																					
	3		○																																			
	2																																					
	1																																					
↑		1	2	3	4																																	
	→ 有効性																																					

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(4) 学校評価システムづくりと効果的運用	① 学校・保護者・地域を結ぶコミュニケーションツールとしての学校関係者評価の実施	教育委員会ヒアリングを各学校に対し、2回実施した。それを踏まえて各学校で、学校関係者評価を実施し、今後の学校運営に生かすようにした。特に、来年度からコミュニティスクールが順次実施されることもあり、学校と地域の連携をより推進するために運用していく必要がある。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	学校評価システムを学校・保護者・地域を結ぶコミュニケーションツールとして運用するという本来の目的にかなった考え方が根底にあることが分かる。現状として、学校関係者評価がどのように学校運営に生かされているか各校の運用の在り方の点検が必要である。
	4																														
	3				○																										
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
(5) 外国語教育の充実	① 小学校英語専科教員の配置	町内の小学校に2名の英語専科教員を配置し、小学校3校(1名は兼務)で、英語専科教員による小学校高学年の外国語科、中学年の外国語活動の指導を行うことができた。担任やALTと連携して、指導形態や指導方法の充実を図ることができた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	英語専科教員の配置により、担任教員・専科教員・ALTが協力して多様な形態の指導を行うことが可能となった。英語教育の充実につながっている。	
	4																														
	3				○																										
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 小学校1・2年生からの外国語活動とクラスルームイングリッシュの実施	町雇用のALTを活用して小学校1・2年から年間20時間程度の外国語活動を行った。ネイティブの発音に慣れることで英語に対する興味・関心が高まり、中学年の外国語活動にスムーズにつながることができた。また、各学校でイングリッシュデイを設定したり、英語の掲示物を作成したりして、日常的に英語に触れる環境を整えた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	低学年からの外国語活動の導入は外国語に親しみながら学ぶためのきっかけになる。また、日常的に外国語に触れる環境づくりは、さらに外国語への興味・関心を高めさせており、高く評価している。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 外国語指導助手(ALT)の配置	小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科の時間の増加により、令和2年度より4名の町雇用のALTを全小・中学校に派遣した。担任や教科担当と連携しながら、リスニング・スピーキング能力の向上のためにネイティブスピーカーとしてALTを活用することができた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	外国語に親しみながら学ぶためには、ネイティブスピーカーとしてのALTの活用が重要である。本町では令和2年度から4名のALTを雇用していただき、対応していただいているので、充実した外国語教育ができています。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
2 ICT活用教育による学びの質の向上	(1) ICT活用教育の推進	① ICT環境の整備	3月末までに一人一台端末の配備を行い、4月からはデジタルドリルやデジタル教科書、授業支援ソフト等の整備を行った。また、端末の活用にあたってのルールづくりや不具合・破損等に対応する体制づくりも行った。端末の持ち帰りに向けては、家庭のWi-Fi環境調査を行い、お試しオンライン学習や家庭用貸し出しルーターの整備を行った。		拡充	ICT活用教育は、多様性のある学習環境や専門性の高い授業の実現など質の高い学習の実現に資することが期待される。荇田町では、デジタルドリルやデジタル教科書、授業支援ソフト等の整備を行い、ソフト面、ハード面とも整備が進んでいると感じる。
		② ICT推進組織(プロジェクトチーム)の立ち上げと定例会議の実施	ICT推進のために、教育委員会内にICT担当係を設置し(2名配置)、体制整備を行った。また、一人一台端末の活用のために、ICT推進プロジェクト部会を立ち上げ、ロードマップに沿って全体の方針の協議や、ICTを活用した授業づくりについて交流・協議を行った。情報教育推進校事業を受けている白川小学校の取り組みを中心にICT推進の横展開を図る場として機能した。		拡充	ICT担当係を2名配置し、ICTを活用した授業づくりを推進している。具体的にロードマップを作成され、それに沿って進め、教職員のICT活用技術のスキルを高めている。
		③ ICT支援員の配置・サポート体制の確立	4校に1名、合計2名のICT支援員(外部委託)を配置した。端末の使い方から授業での活用について、各学校でミニ研修などの日常的なサポートを行うことで、端末の利活用の推進に効果があった。今後も継続して研修や活用事例の提供を行うなど支援の充実を図る必要がある。		拡充	専門家による側面的支援が不可欠なICT分野について、各校の教職員が相談しやすいような支援体制が構築されている。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																															
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																																
3 教育環境の整備	(1) 安心・安全な学校づくり	① 危機管理体制の強化	<p>コロナ感染症の拡大に対応して、行橋市・みやこ町と連携して「新型コロナウイルスに関する学校や児童生徒のお休みのガイドライン」を策定し、登校の判断や休校・学級閉鎖の判断の基準を示すとともに、濃厚接触があった場合の学校での検査体制や方法、情報共有の方法を明確にした。</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4				○	3					2					1					↑						1	2	3	4	継続	<p>関係機関の尽力により新型コロナウイルス感染症に関するガイドラインが作成されたため、学校現場の混乱が少なくなり、コロナ禍に応じた教育活動が行われるようになったと思う。今後も各機関と連携した取組をお願いしたい。</p>
		4				○																														
		3																																		
		2																																		
1																																				
↑																																				
	1	2	3	4																																
② 通学路安全確保のための点検実施と危険個所の改善	<p>通学路交通安全プログラムの合同点検を地域連携の場として位置づけ、各校PTAや地域住民、関係機関と連携して危険個所の把握に努めることができた。また、この点検による危険個所資料を基に、警察、国県市道路管理者、防災地域振興課、学校、PTAなどの関係者とともに実地確認し、必要な改善につなげることができた。</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3			○		2					1					↑						1	2	3	4	継続	<p>通学路の安全確保は重要であり、地域関係団体と連携して危険個所の把握に努め、改善につなげていることは組織的な動きがよくできていると思う。今後も、特に幼児児童生徒目線で危険個所と感じられるところは躊躇なく改善につなげていただきたい。</p>		
4																																				
3			○																																	
2																																				
1																																				
↑																																				
	1	2	3	4																																
③ 学校の教育環境の向上のためのICT環境の整備	<p>一人一台端末の整備に伴い、令和3年3月末までに高速大容量インターネットの整備を完了した。4月からの本格使用で学年が一度に使用すると速度が落ちるなどの課題も出てきたが、ボトルネックを探すなどの対応を行い、徐々に課題を解決していった。また、大型提示装置は約半数の60台を整備した。残りは令和4年度に整備完了する予定である。</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3				○	2					1					↑						1	2	3	4	拡充	<p>ICT教育推進のための環境整備には、既存の設備では対応できない面も多々あるという課題を解決するために積極的に迅速な対応がなされている。今後も学校をいつでも支援できる体制を構築していただきたい。</p>		
4																																				
3				○																																
2																																				
1																																				
↑																																				
	1	2	3	4																																
④ 感染症対策環境の整備としてのスクールサポートスタッフの配置	<p>コロナ感染症拡大防止対策として各学校1名(与原小は2名)、計9名のスクールサポートスタッフを雇用し、校舎内の消毒作業などを行った。教職員の負担軽減にもつながり、今後もコロナの収束までは、継続する必要がある。</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3				○	2					1					↑						1	2	3	4	継続	<p>コロナ感染症拡大防止対策のスタッフの配置により、教職員の負担が大きく軽減できたことは、児童生徒の学びの支援にも繋がり有意義である。今後は、継続した配置をお願いすると同時にチーム学校としてこれまで以上の教職員との連携を大事にしてもらいたい。</p>		
4																																				
3				○																																
2																																				
1																																				
↑																																				
	1	2	3	4																																

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
3 教育環境の整備	(2) 働き方改革の推進	① タイムカード導入による 勤怠管理の実施	働き方改革の推進にあたって、全小・中学校で勤務時間管理ソフトを使用し、ICカードによる在校時間の見える化を行った。教育委員会で町全体及び学校ごとのデータを集計し、各学校長に配布することで在校時間が把握でき、意識化を図ることが出来た。	 <p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	継続	働き方改革の推進として、タイムカード導入による在校時間の見える化を行ったことは、働き方改革の意識化を図る一助となり得る。その効果は高いと考えるが、数値に見えない勤務実態把握に努めてほしい。
	② 業務のデジタル化と情報共有の推進	教職員の働き方改革のために校務支援システムと一人一台端末の機能を生かした情報共有と活用を行った。各学校の共有サイトに作成したコンテンツを登録することで教育財産の共有化を図ったり、ミーティング機能を活かしたデジタル職員室の活用などで打ち合わせの時間削減を行ったりした。今後もさらに学校のペーパーレス化を進めていく必要がある。	 <p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	拡充	働き方改革の推進として、校務支援システム、一人一台端末を利用して業務のデジタル化が進展している。すでにこれらを活用した取組がなされているが、さらに業務の効率化を目指した取組を行ってほしい。	

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
3 教育環境の整備	(3) 施設機能の向上	① 特別教室への空調設備整備	未整備であった小・中学校の特別教室(小学校30教室、中学校39教室)に空調設備を整備し、快適な学習環境を創出した。	達成度 ↑ <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	空調を整備し快適な学習環境を作っただき、感謝している。今後は、メンテナンスを計画的に実施し、維持管理に努めてもらいたい。
	4				○																										
	3																														
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
(4) 校舎修繕改修	① 老朽化した施設の整備改修	教室が不足していた与原小学校の校舎増築(4教室)工事が完了し、令和4年度4月から供用開始となった。 また、苧田町学校施設等個別施設計画に基づき、苧田中学校の大規模改修工事の基本設計を行ったが、年度内に完了できなかった。	達成度 ↑ <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	児童生徒の生命にかかわる施設老朽化の問題に、迅速かつ確実に取り組まれている。財政が逼迫する中、計画的に行っていることはとても評価できる。工事にあたっては児童生徒の教育環境や安全に最大限の配慮を払ってほしい。	
	4																														
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 校舎等の危険個所の整備・補修	学校からの要望に応じ、施設担当職員が迅速に対応し、修理や改修を行った。 ・南原小学校職員トイレ排水設備修繕 ・南原小学校階段下塞ぎ修繕 ・苧田中学校技術教室床修繕 ・苧田中学校バスケットゴール取替 ・苧田中学校体育館西側玄関修繕 ・新津中学校揚水ポンプ修繕 小・中学校校舎等の小規模営繕業務に関しては、会計年度任用職員1名を雇用し、学校要望に迅速に対応できた。	達成度 ↑ <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	校舎の修繕改修のために、施設担当職員や会計年度任用職員の雇用で迅速に対応されているのは高く評価できる。安心・安全な学校づくりに努めておられることが分かる。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
4 学校・家庭・地域の連携と協働	(1) 家庭、地域の教育力を高める取組	① 「家庭学習のすすめ実践の手引き」の効果的活用	「家庭学習のすすめ」をR3年3月に作成し、4月に全児童生徒に配布した。自主学習のモデルとして家庭学習で活用され、家庭での計画的な学習の定着や学習内容の質の向上に繋がった。今後は家庭学習時間を増やすための取組が必要である。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	継続	家庭の教育力の向上のために、実践手引きを新たに作成し、配布するなど積極的に取り組んでいると評価する。その効果を高めるためには家庭の協力が不可欠であるので、家庭の協力を引き出す方策を模索してほしい。
		② 地域企業・大学・高校との連携	コロナ禍のため例年通りの外部講師の招聘は難しい面があり、地域企業と連携した職業体験などは中止となったものもあった。しかし、ICTを活用して地域企業とオンラインで体験授業を行ったり、中学校のICTを活用した授業を高校教員が参観したりする等、来年度に向けて連携の基盤をつくることができた。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	継続	高校教員による中学校授業参観は、双方にとって収穫の多いものになることと思う。頻度は増やさずとも、今後も計画していただきたい事業といえる。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
4 学校・家庭・地域の連携と協働	(2) 学校・家庭・地域の連携による安全確保	① 校区パトロールや声かけ運動の実施	児童生徒の下校時間に合わせて指導主事による青色防犯パトロールを実施し、児童生徒の安全確保を行った。また、PTAや学警連、町民会議の協力のもと、計画的な街頭補導・声かけも行った。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	継続	学校、地域、関係機関が連携した見守り活動は、苅田町に根付いてきたように思う。関係者や地域の方たちの協力に感謝したい。
		② 緊急時のための集団下校訓練や防災訓練の実施	密を避けるため、学校によっては全校一斉の防災訓練の実施は難しかったが、分散型による訓練など工夫して実施することができた。災害時に自主的に考え、行動できることを重視した訓練を通して自律的な行動を促す防災教育が実施できた。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	継続	防災訓練はマンネリ化させないことが重要である。三密を避けるためであったとしても、結果的に訓練方法の見直しが行われて継続実施されたことは有意義である。
		③ 就学援助費臨時援助金の給付、及びコロナ対策としての給食費の減免	コロナ禍における家庭への支援として、町内小中学校へ通う児童生徒の家庭に対し、給食費の年間免除を行った。また、就学援助世帯についてはコロナ等の影響で収入が減った世帯について配慮を行った。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	継続	さまざまな家庭事情を視野に入れた幅の広い就学援助体制を整えていただいた。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																						
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																							
4 学校・家庭・地域の連携と協働	(3) 教育のまちづくりの推進	① 特色ある教育活動の充実と公開	総合的な学習の時間を活用したかんだっ子学習の中で、各学校で特色ある取組を行った。コロナ禍で公表の場が少なかったが、与原小学校では御所山古墳について調べたことを古墳周辺で、南原小学校ではSDGsの取り組みを役場のロビーで町民に向けて情報発信することができた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3			○	2				1					1	2	3	4	継続	「総合の時間」の趣旨、苧田の「特色ある教育活動」の趣旨に適う、適切な学習機会が設定されている。公表・発信の場を設けたのはとてもよい取組だったと思う。
		4																									
	3			○																							
	2																										
1																											
	1	2	3	4																							
② コミュニティスクールの実施に向けた試行	令和4年度からの与原小学校と馬場小学校での実施を目指し、既存の地域会議を活用することの検討を行ったり、運営協議会委員の決定に向けての話し合いを行ったりした。全学校の学校評議員や学校関係者に向けた研修会を2月に予定していたが、コロナ禍で中止となり、その後に馬場小学校のみ個別開催した。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3			○	2				1					1	2	3	4	拡充	関係者間のコンセンサスを得るまでの手続きなどは大変であろうと拝察する。引き続き着実に進めていただきたい。		
4																											
3			○																								
2																											
1																											
	1	2	3	4																							
(4) 地域の伝統文化体験の充実とふるさと文化理解	① かんだっ子学習への地域人材の活用(苧田山笠・等覚寺松会の伝承)	苧田山笠や松会については行事そのものが中止になり、体験学習の実施は難しかった。かんだっ子学習として「苧田ガイドの会」と連携した町探検は実施できた。今後はオンラインによる伝承体験なども工夫する必要がある。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3				2		○		1					1	2	3	4	継続	行事そのものが中止になり、所期の目的が達成できなかったことは残念であるが、「苧田ガイドの会」と連携した取組だけでもできたことは次年度に繋がるのではないかと。	
	4																										
3																											
2		○																									
1																											
	1	2	3	4																							
② 携帯電話やメールの危険性についての啓発活動	全学校で外部講師を招聘し、規範意識を育成するための規模を縮小した講演会を開催することができた。講演会は児童生徒と保護者が共に学ぶ場とし、SNSトラブルの避け方や情報モラル、インターネットやゲームとの付き合い方等、家庭への啓発もあわせて行った。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3			○	2				1					1	2	3	4	継続	児童生徒の生命・財産に直接関わることであるから、今後も継続・充実させていきたい。昨今SNSによるトラブルが報道される中、有意義であったと考える。		
4																											
3			○																								
2																											
1																											
	1	2	3	4																							

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
5 多様性を踏まえた教育の実践	(1) 特別支援教育の推進	① 苧田町特別支援教育推進連携システムの活用	児童生徒の実態や教育ニーズなどの総合的な把握のため、チーム学校として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、指導主事、その他関係機関との連携を強化した。その中で、情報共有を行い、各学校でのケース会議の支援に繋がるような取組を進めた。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	特に外部の専門家・専門機関との連携が必須である分野について、町教委が積極的に支援体制(システム)構築に取り組んでいるのは、理想的である。
		4				○																									
		3																													
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 心と体の発達教育相談の充実	指導主事を中心に町の子育て健康課と連携し、町内の全幼稚園・保育所を対象にしたすくすく巡回相談を行った。カンファレンスを通して保・幼・小の情報共有ができ、小学校就学時健康診断時での教育相談の充実に繋がっている。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	保護者・幼児教育従事者をバックアップする心強い取り組みだと評価できる。実際多数の相談が寄せられているとのことで、今後に反映させていただきたい。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 学校生活支援員の配置	合理的配慮を必要とする児童生徒のため、苧田小4名、馬場小4名、南原小4名、与原小4名、片島小1名、白川小1名、苧田中3名、新津中2名、計23名を配置し、個に応じた支援や見守りを充実させた。年度当初の配置にあたり、4月に特別支援教育についての研修会を実施した。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	合理的配慮を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、個に応じた支援などを充実させるためには学校生活支援員の活用が必要である。支援員の増員を望む。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																						
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																							
5 多様性を踏まえた教育の実践	(2) いじめ・不登校への対応	① 教育相談システム確立のためのチーム作り	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談担当の指導主事、教育支援センター指導員が連携して綿密に情報共有をし、いじめ・不登校の早期発見・解決に向けた取組を行った。コロナ禍のため十分な家庭訪問等ができなかったことが課題であった。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3				2		○		1					1	2	3	4	拡充	コロナの収束が見えない中、家庭訪問等を通じた情報収集、実態把握をどのようにするかを検討していただきたい。
		4																									
		3																									
2		○																									
1																											
	1	2	3	4																							
② スクールソーシャルワーカーの配置	各学校の要請に応じて、町雇用のスクールソーシャルワーカー1名を派遣し、学校や家庭と連携しながら課題対応を行った。対応児童生徒数は、小学生44人、中学生35人、高校生2人。コロナ禍のために対面による支援が出来にくい状況であった。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3			○	2				1					1	2	3	4	拡充	ケースの複雑化・多様化が進んでいる中で、よく把握・対応がなされている。高校まで継続した支援は、これまでの関わりの成果であると考え。これからも関わりを大事にして支援してほしい。		
4																											
3			○																								
2																											
1																											
	1	2	3	4																							
③ 教育支援センターの体制整備	教育支援センター(すみれ教室)を三原文化会館に設置し、不登校児童生徒の学校復帰を目指し、学校や指導主事、関係機関との連携を図りながら来室者の適切な支援を行った。入室者12名のうち学校復帰は6名であった。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3			○	2				1					1	2	3	4	継続	すみれ教室の入室者の内、半数が学校復帰できたことは、指導員や学校を含めた関係者等の連携、サポートのお陰だと考える。すみれ教室に入室していない不登校児童生徒へのサポートも引き続きお願いしたい。		
4																											
3			○																								
2																											
1																											
	1	2	3	4																							

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
5 多様性を踏まえた教育の実践	(3) 国際理解教育の推進	① 帰国・外国人児童生徒への日本語指導体制の整備	福岡県の日本語指導体制整備事業を受け、2名の指導員を雇用し、帰国・外国人児童生徒(苅田小1名、南原小1名、馬場小1名、与原小2名)への日本語指導を行った。転入者の増加も見込まれるため、今後も継続が必要である。	達成度 ↑ <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	グローバル化が進む現代、帰国・外国人児童生徒が今後益々増加していくため、日本語指導員の役割は大きくなる。子どもたちが充実した学校生活を送れるよう、今後も継続してほしい。
		4																													
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 苅田町多文化共生事業との連携	苅田町に居住する外国人(留学生も含む)の増加に伴い、国際理解教育を推進するために、町の事業と連携しながら交流活動などを充実させる必要がある。本年度はコロナ禍のため、西日本工業大学の留学生との交流活動は未実施、アジア太平洋子ども会議への参加も実施できなかった。	達成度 ↑ <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3					2			○		1						1	2	3	4	継続	出入国制限や感染症対応の仕方も変わってきたので、いろいろな交流方法を検討しつつ、引き続き取り組んでいただきたい事項である。		
4																															
3																															
2			○																												
1																															
	1	2	3	4																											

1-2 生涯学習の充実と文化の振興 (生涯学習課)

目指す姿 子どもから高齢者までが、生涯を通じて学習し、芸術・文化やスポーツ活動に取り組んでいます。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
1 学習 機 会 の 充 実	(1) 年代や目的に 応じた講座・教 室の開催	① 高齢者分野の講座・教室 の開催	シニアセミナーや健康体操、生活に役立つ教養などの講座を開催した。(令和3年度 36回、446人)(令和2年度 31回、355人)1講座をコロナ感染拡大防止のため中止した。	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	感染症対策に配慮しつつ、よく意欲的に継続実施されている。年々参加者、講座数が増加していることは、シニア世代のニーズの現れだと考える。さらに充実した講座・教室の開催を期待する。
		② 成人分野の講座・教室の 開催	趣味教養を中心とした講座を開催した。(令和3年度 76回、905人)(令和2年度 116回、1,035人)3講座をコロナ感染拡大防止のため中止した。他分野の講座の回数を多くしたことや、西部学級(高齢者対象)を開催したため講座実施回数が減少した。	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	感染症対策の観点から、講座の性格を勘案して実施の可否を見極めつつ、意欲的に講座が開設されている。
		③ 女性分野の講座・教室の 開催	女性を対象にした講座を開催した。(令和3年度 14回、134人)(令和2年度 12回、141人)1講座をコロナ感染拡大防止のため中止した。	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	社会教育・生涯学習の立場からだけでなく、より広く、複合領域的に拡充していただきたいジャンルである。更なる参加者の増を期待する。
		④ 青少年分野の講座・教室 の開催	夏休みに子どもや親子を対象に習字、陶芸、工作体験などの講座を開催した。(令和3年度 13回、124人)(令和2年度 1回、7人)4講座をコロナ感染拡大防止のため中止した。	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	従来の「青少年教育」的な枠組みにとらわれず、生涯学習・学校教育双方にまたがって有効な体験的取組をなお一層充実させていきたい。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
1 学習機会の充実	(1) 年代や目的に応じた講座・教室の開催	⑤ 子育て・家庭教育分野の講座・教室の開催	家庭教育学級の支援や趣味、教養などの講座を行った。(令和3年度 3回、66人)(令和2年度 4回、92人) 家庭教育学級(与原小学校のみ開催)5校はコロナ感染拡大防止のため中止した。	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	家庭教育学級が5校でコロナ感染症拡大防止のため中止になったのは残念である。この領域も現在、全国的にその在り方・方法を見直す時期に入っていると思う。住民目線に立って、新しい取組を複合領域的に検討して進めていただきたい。
		⑥ 人権・男女共同参画学習の推進	各公民館において、7月に人権教育講座を開催した。12月の4館合同講座はコロナ感染拡大防止のため中止した。(令和3年度 4回、106人)(令和2年度 3回、111人)	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	人権教育講座は、人権に関しての町民の意識高揚のために必要であり、実施した講座のテーマも関心を引く内容であった。継続して実施することを望む。
	(2) 学校、企業や住民等との連携・活用	① 大学・専門学校・企業との連携	大学教授を講師とする講座を開催した。(令和3年度2回、64人)(令和2年度 1回、58人) 専門学校・企業の社員を講師とする講座を開催した。(令和3年度 4回、72人)(令和2年度 10回、152人)	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	専門的なことを学ぶことができる大学教授を講師とする講座は今後も大いに開講してほしい。教養を高めるために必要な講座である。
		② 多様な住民等活用	住民登録講師のサークルが活動している。(令和3年度13団体、147人) 令和2年度(9団体、58人) 住民登録講師の公民館講座を開催した。(令和3年度13回、147人) 平成30年度(6回、136人)	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	昨年度を大幅に上回る住民登録講師のサークル数である。公民館講座の講師としても活躍している。コロナ禍以後も活躍することが期待できる。

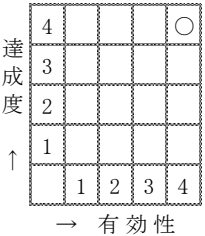
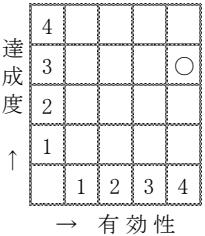
評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
1 学習機会の充実	(3) 住民サイドに立った公民館活動の推進	① 情報提供体制の充実、広報	年間計画のほかそれぞれ開催の講座について広報誌やホームページにより募集を行なった。(令和3年度掲載回数14回)(令和2年度掲載回数17回)	達成度 ↑ <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	公民館活動の年間計画や講座内容を定期的に提供しているので応募し易い。試みにキーワードで検索してみたが、わかりやすいレイアウトで要領よく案内がなされている。
		4				○																									
	3																														
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
② 登録自主サークルの情報を積極的に開示	広報誌に自主サークルの情報を掲載した。(令和3年度 91団体)(令和2年度 92団体)	達成度 ↑ <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	登録自主サークルの情報を広報誌等に掲載しているため、住民は自分の興味に応じて積極的に参加依頼している状況がある。今後も継続して発信していただきたい。欲を言えば、サイトには登録サークル一覧があるが、内容に関しての情報が少ない。「活動状況については広報誌に紹介」の旨、一文記載されているとよいのではないか。		
4																															
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
(4) 公民館まつりの開催	① 公民館まつりの開催	各館ごとに実行委員会を組織し公民館まつりの準備を行ったがコロナ感染拡大防止のため中止となった。	達成度 ↑ <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3					2					1				○		1	2	3	4	継続	公民館まつりがコロナの感染拡大防止のために中止になったが、住民が毎年楽しみにしている行事であるので、感染防止対策を取りながらできる範囲で実施できなかったのかと思う。2年連続の中止であるので、実施のためのノウハウや人材の喪失が気になる。	
4																															
3																															
2																															
1				○																											
	1	2	3	4																											
(5) 公民館貸館	① 公民館各部屋の貸出	各公民館においてホールや目的別部屋(視聴覚室、調理室、音楽室、幼児室、工芸室等)の貸出しを行なっている。 (令和3年度 3,297件、30,444人) ※コロナ感染拡大防止の為、3月の貸部屋無し (令和2年度 3,441件、29,304人)	達成度 ↑ <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4					3					2				○	1						1	2	3	4	継続	公民館各部屋の貸出は住民の学ぶ場所が確保できて有効である。公民館各部屋の貸出件数は昨年度より増加しているが、コロナ感染症防止のため貸出ができなかった時期があったのは残念である。	
4																															
3																															
2				○																											
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
1 学習 機 会 の 充 実	(6) 自主サークルや各団体が主催するイベント等への支援	① 自主活動の支援	文化協会等、社会教育認定団体に対し、町立文化会館の使用料を半額にし、自主活動を支援した。	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	自主サークル活動が町立施設の使用料半額減免を受けて活発に活動できている。町を代表する認定各団体の維持と活性化のために大切な取組である。継続していただきたい。
		② 発表の場の確保	例年、文化協会による文化まつりの支援を行っていたが、令和3年度は、コロナ感染拡大防止のため中止した。 【令和2年度も中止】	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	コロナ禍でイベントが中止になったが、自主サークルや各団体向けに、密を避けたものに刷新した何か新たな成果物の発表の機会をぜひ検討していただきたい。
	(7) 住民が本物の芸術に触れる機会の充実	① 町民が多様な芸術文化に触れられる機会の充実	町民文化祭はコロナ感染拡大防止のため中止した。また、例年自衛隊による公演が開催されているが、コロナ感染拡大防止のため開催されなかった。 【令和2年度も中止】	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	既に検討中とは思いますが、座席間隔や換気などに配慮した「時間空間人間」の限定された上演、分散型定期展示などの新たな形態を検討してみてはどうかと考える。
		② 子ども向けなど、対象を絞った芸術・文化に触れる機会の創出	町民文化祭の中止に伴い実施しなかった。福岡県市町村振興会による九州交響楽団演奏の「中学生の未来に送るコンサート」を中央公民館で4回開催した。	達成度 4 3 2 1 ↑ 1 2 3 4 → 有効性	継続	中止するイベントが多い中、市町村振興会主催の「中学生の未来を送るコンサート」を4回実施していただき、ありがたい。今後も子どもたちに本物の芸術に触れる機会を設けてほしい。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																											
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																												
1 学習機会の充実	(8) 地域活動指導員の活用	① 体験学習事業の企画・実施・支援	通学合宿事業(与原小学校区、会場:小波瀬C.C.)の、企画・事前準備(1週間)・実施及び支援を行った。(4日間、16人参加)【令和2年度はコロナのため中止】	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	達成度	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	感染症対策も含めて、工夫を凝らした校外体験学習の成功例だと言える。子どもたちが自分で生活を管理する力を養う実践の場として今後も大事にしていきたい。
		達成度	4																													
		3			○																											
	2																															
	1																															
		1	2	3	4																											
② 子ども会活動の支援	子ども会活動としてスタンプラリー(223人参加)、夏季キャンプ(30人参加、3泊4日)、カルタ大会(60人参加)、ジュニアリーダー研修(24人参加)を行った。【令和2年度(スタンプラリー39人)、糸島フォレスト(53人)、カルタ大会(中止)、ジュニアリーダー研修(26人)】	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	達成度	4			○		3					2					1						1	2	3	4	継続	オンライン受付を取り入れるなど工夫した支援を行い、参加者の増加に繋がった活動があったことはとても評価できる。できるだけ多くの子どもたちが参加できるよう、今後も工夫改善してもらいたい。		
達成度	4			○																												
	3																															
	2																															
	1																															
		1	2	3	4																											
(9) 通学合宿事業の推進	① 通学合宿継続実施者の支援	コロナ感染拡大防止のため宿泊をしない通学クッキングを苅田町子ども会育成連合会が実施した。与原小学校区で16名参加。大学生のボランティアなどを活用するなどの支援を行った。【令和2年度中止】	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	達成度	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	子ども会育成連合会による通学合宿に対して、ボランティア活用などの支援を行っているのは、子どもの自立や人間関係力育成に有効である。コロナ禍の中、できる形態として通学という形で活動を実施したことはとても評価できる。	
達成度	4																															
	3			○																												
	2																															
	1																															
		1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
2 生涯スポーツの推進	(1) スポーツによる健康づくり	① 勤労者・高齢者の健康づくりの一環として各種スポーツ・イベントの実施	<p>■屋内競技 苅田町総合体育館がワクチン接種会場として使用していた。またコロナ感染拡大防止により活動に制限が生じた。そのため、アジャタ大会、スポーツレクリエーション祭は中止した。</p> <p>■屋外競技 コロナ感染拡大防止により活動に制限が生じた。そのため、スポーツレクリエーション祭とふれあいマラソン大会は、中止した。</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>↑</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3					2					1				○	↑	1	2	3	4	継続	<p>多人数のスポーツや屋内のスポーツ大会実施には依然制約が多めで、実施が難しいと思うが、「大会」にまで至らずとも、何か町民が楽しく運動できる機会があるとよい。</p>
		4																													
		3																													
2																															
1				○																											
↑	1	2	3	4																											
② 総合体育館の利用促進	<p>令和3年度の苅田町総合体育館利用人数は延べ6,476名で前年度と比べて27,151名の減となっている。</p> <p>コロナワクチン接種会場としてアリーナを11ヶ月使用不可としたため大幅に減少した。</p> <p>【令和2年度33,627名】</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3					2					1		○			↑	1	2	3	4	継続	<p>ワクチン接種が優先であるから、体育館全体の利用者が減ったこと自体はやむを得ないことだと考える。むしろワクチン接種会場控室以外の部屋の利用者が多数いたことを積極的に評価すべきであろう。</p>		
4																															
3																															
2																															
1		○																													
↑	1	2	3	4																											
③ 苅田町町民温水プールの利用促進	<p>令和3年度の町民温水プール利用人数は延べ39,961名で、コロナ前の平成31年度と比べて23,149名の減となっている。コロナ感染拡大防止のため、都合3回、131日間臨時休館した影響が大きい。</p> <p>【平成31年度63,110名】【令和2年度42,036名】</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3					2					1		○			↑	1	2	3	4	継続	<p>130日間休館して約4万名の利用者がいるのは、依然として利用者は多いといえる。温水プールも総合体育館と同様に町民の健康づくりには欠かせない施設であるので、休館している期間に利用者の利用促進に繋がる取組を考えてほしい。</p>		
4																															
3																															
2																															
1		○																													
↑	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
2 生涯スポーツの推進	(2) 施設の維持管理	① 体育館・球場など各スポーツ施設の整備	<p>総合体育館や臨海総合グラウンド等のスポーツ施設も老朽化が進んでいるため、順次整備を行っている。</p> <p>総合体育館PAS更新工事 486,750円 総合体育館事務室空調機修繕 325,600円 総合体育館照明灯修繕 215,600円 総合体育館第2駐車場照明設置工事 993,300円 総合体育館外灯修繕 1,076,900円 総合体育館手摺設置工事 607,200円 町民温水プール排煙オペレーター修繕 347,600円 臨海総合グラウンド照明囲いフェンス補修工事 459,800円</p>	<p>達成度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3			○		2					1						1	2	3	4	拡充	<p>施設の更新・改修工事によく対応され、利用者の快適な施設利用をもたらしてくれている。引き続き、整備を進めてほしい。</p>
	4																														
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
	(3) 学校施設の開放	① 各地域でのスポーツ推進	<p>町内小中学校の校庭、体育館の一般への開放を行っている。総合体育館の代替としての利用が増加した。 令和3年度は69団体が利用した。 【令和2年度 56団体】</p>	<p>達成度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	<p>総合体育館がワクチン接種会場として使用されている代替として、町内の小中学校の体育館を開放していただき、町民の健康づくりに大いに貢献していると考えます。今後も、コロナ感染拡大防止に努めながら町民へ開放してほしい。</p>
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
3 図書館サービスの充実	(1) 図書館サービスの充実	① 利用しやすい環境づくり	<p>祝日開館、春夏秋冬休み期間中の月曜開館、木・金曜日の開館時間延長(午後7時まで)を行った。 コロナ感染拡大防止のため8月13日から9月12日、1月25日から3月6日まで閉館した。 (令和3年度末蔵書数 291,402冊) (令和2年度末蔵書数 291,332冊)</p>		継続	<p>利用しやすい環境づくりとして、積極的にさまざまな取組をしている。必要な期間の閉館にとどめ、住民ニーズに応えるサービスが行われていると言える。祝日開館、月曜開館、開館時間の延長などで対応していただき、町民の利用機会を増やしたと考える。</p>
		② 移動図書館の利用促進	<p>保育園・幼稚園・学校等への巡回貸出の充実。コロナ感染拡大以前よりは減少しているが、感染対策を行いながら実施した。 (令和3年度 巡回 9ヶ所、貸出数 8,725冊) (令和2年度 巡回 9ヶ所、貸出数 7,826冊) (平成31年度 巡回 11ヶ所、貸出数 13,626冊)</p>			

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
3 図書館サービスの充実	(1) 図書館サービスの充実	③ 利用者の拡大及び職員の資質向上	<p>広域利用や秋の読書週間まつり、その他来館を促すイベントの実施により利用者の拡大を図る。感染対策を行いながら新しい生活様式の中でできる範囲で実施した。</p> <p>また、利用者の拡大や新しい生活様式に対応するため、電子図書サービスを令和3年8月から開始した。</p> <p>(令和3年度) おはなし会 年32回(参加者427人) 講座 年0回(参加者0人) 講演会 年0回(参加者0人) 展示会 年2回、演奏会 年1回(参加人数48人) シネマ 年9回(参加者31人) ブックリサイクル(320人) (令和2年度) おはなし会 年32回(参加者277人) 講座 年2回(参加者28人) 講演会 年2回(参加者73人) 展示会 年7回、演奏会年2回(参加人数71人) シネマ 年15回(参加者68人) ブックリサイクル(485人) (令和3年度 年間貸出数 191,225冊) (令和2年度 年間貸出数 185,671冊) (令和3年度 団体貸出 8団体 8,489冊) (令和2年度 団体貸出 7団体 8,654冊) (令和3年度 広域利用貸出 5,578冊、1,041人、登録者数 1,919人) (令和2年度 広域利用貸出 7,551冊、1,391人、登録者数 2,037人) (令和3年度 電子図書サービス利用実績 貸出人数 1,478人 貸出冊数 28,046冊) 県立図書館主催の研修会等に参加し、資質の向上を図った。 令和2年度 1回(参加者1人) 令和3年度 6回(参加者18人)</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3				○	2					1						1	2	3	4	<p>拡充</p>	<p>時代に対応した電子図書サービスの開始など、意欲的にサービスに取り組んでいる。</p> <p>研修会等に多くの職員が参加し資質向上を図られ頼もしい。</p>
	4																														
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																										
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																											
4 文化財の保護と活用	(1) 町内の文化財調査を法令に基づき、適切に調査し、保護・活用をおこなう。	① 国・県・町指定を中心とした文化財の調査と整備	<p>国庫補助金・県費補助金を活用して、国指定史跡御所山古墳の区有地・民有地計5筆の公有化、3筆の追加指定をおこない、史跡内の発掘調査を実施した。令和3年8月の豪雨により、国指定重要無形民俗文化財等覚寺の松会を行う場である松庭が崩落したため、応急的な復旧工事と埋蔵文化財調査をおこなった。</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	<p>文化財の調査と整備が熱心に行われ、必要な対応が速やかに行われている。</p> <p>令和3年8月豪雨により崩落した箇所を早急に対応していただき、大事な文化財を保護することができたと考える。完全復旧のための対応をお願いしたい。</p>
		4				○																									
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 開発に伴う遺跡の調査と報告書作成	<p>民間・公共事業による土木・建築工事等の開発のため、周知の埋蔵文化財包蔵地等において、試掘・確認調査を13件おこない、遺跡の記録保存や防災等都市計画に必要な地下情報の蓄積をおこなった。また、遺跡の記録保存のための緊急発掘調査3件を実施し、発掘調査報告書1件(本町遺跡群)を刊行した【令和2年度18件・1件】</p>	<p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	<p>文化財保護のため緊急を要する事案の見極めと対応が適切に行われている。</p> <p>開発情報を迅速に収集し、開発に伴う遺跡の調査を適切に行っていると考える。</p>		
4																															
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																						
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																							
4 文化財の保護と活用	(2) 失われゆく町内の文化財や伝統文化の調査・保存をおこない、確実に次世代に継承する。	① 歴史・伝統文化にかかわる文化財の保存・修復	過去の発掘調査における町内遺跡出土品・調査記録の整理・保存をおこない、大分県立歴史博物館ほか博物館等の特別展示借用4件26点のほか、九州国立博物館等他にも展示や書籍等掲載のため計10件45点の貸出・掲載許可を実施した。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3		○		2				1					1	2	3	4	継続	専門家によるアーカイブ業務が適切に行われている。出土品についての調査記録の整理・保存を行うことは、新たな発見に繋がると考える。これからも積極的に行ってほしい。
		4																									
		3		○																							
2																											
1																											
	1	2	3	4																							
② 個人所有が困難となった文化財を歴史資料館において保護・公開	かんだ郷土史研究会と協働し、町内遺跡出土縄文土器等の寄贈品の整理・展示、町の歴史に関する寄贈古文書の目録作成による公開をおこなった。また、盗難防止のため、等覚寺の松会に関する太刀・刀・脇差、掛軸、銅製経筒(県指定考古資料)や銅造如来形坐像懸仏(町指定有形文化財)計10点を寄託展示・保管した。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4				3		○		2				1					1	2	3	4	継続	町内の貴重な文化財の保護管理業務が遂行されている。今後も個人所有が困難となった文化財の情報収集を行い、文化財の喪失を防いでいただきたい。		
4																											
3		○																									
2																											
1																											
	1	2	3	4																							
③ 無形民俗文化財の記録保存	国指定無形民俗文化財等覚寺の松会を、苅田町が10年間以上撮影した写真・映像と、それを基に作製した映像作品「等覚寺の松会」や伝承記録映像を含む総データファイル数約3万点が長期保存可能な専用媒体に記録されている「等覚寺の松会 映像・写真記録」を、苅田町と東京に分散保管するため、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所へ寄附し、著作権が無効となる2092年まで無償で保管されることとなった。加えて、「等覚寺の松会・綱打ち調査報告書」を刊行した。また、昨年引き続き、ガイドブック・DVDを販売した。	達成度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> → 有効性	4			○	3				2				1					1	2	3	4	拡充	最新の記録保存・管理のノウハウを活かして、町内の文化財の保護管理業務が遂行されている。等覚寺の松会については写真映像として記録保存が着実に進んでいる。苅田山笠の伝承とその整理もお願いしたい。		
4			○																								
3																											
2																											
1																											
	1	2	3	4																							

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																											
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																												
4 文化財の保護と活用	(3) 文化財情報の発信	① HPや広報を利用した、わかりやすい文化財情報の発信	町内所在の天然記念物・史跡・民俗文化財などの紹介や埋蔵文化財の発掘調査等の速報や文化財を活用した事業の広報等を『広報かんだ』に7件掲載し、HP・FBを活用し19件の情報発信をおこなった。加えて、指定文化財の紹介リーフレット「苧田町の文化財」を刊行した。【令和2年度11件・20件】	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	達成度	4					3		○			2					1				↑		1	2	3	4	継続	広報かんだ、HP・FBなど、さまざまな発信のツール・機会を活用して、積極的な情報提供が行われている。文化財についての関心が高まる情報発信である。
		達成度	4																													
		3		○																												
		2																														
		1																														
	↑		1	2	3	4																										
② 町内の歴史資源をテーマとした講座・講演会・見学会等の実施	町職員による西日本工業大学講義やかんだ郷土史研究会と共催でまちの歴史講演会等をおこない計131名が参加した。なお、コロナ感染拡大防止のため、町内小学校の歴史資料館や石塚山古墳の見学等を中止したが、与原小学校と協働して御所山古墳の見学授業を実施したのち、学習成果として壁新聞・ポスター・団扇等9種246作品の野外展示会をおこなった。展示期間9日間で町内外から来場者(3歳～83歳)が約130名あった。	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	達成度	4					3		○			2					1				↑		1	2	3	4	拡充	歴史講演会等はコロナ禍に拘わらず昨年度と比べると町民の参加が増加している。このことで、町民の関心度が高くなったのではないかと思われる。引き続き、情報発信できる取組を行ってほしい。		
達成度	4																															
	3		○																													
	2																															
	1																															
↑		1	2	3	4																											
(4) 苧田の歴史・文化・自然・伝統を学び、継承していく場としての歴史資料館や遺跡の整備	① 歴史案内ボランティアの育成	苧田町歴史資料館の総利用者数643名。土・日・祝日開館のために、かんだ郷土史研究会に一日館長として館内業務を委託した。大分県立歴史博物館と出張展示「大分県立歴史博物館in苧田」を共催した際、期間中に銅鏡パズルや古墳に関するクイズなどのワークショップも開催し、かんだ郷土史研究会に補助を依頼した。なお、コロナ感染拡大防止のため、令和3年5月12日～6月20日、8月13日～9月30日、令和4年1月24日～3月6日を臨時休館とした。【令和2年度544名】	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	達成度	4					3		○			2					1				↑		1	2	3	4	継続	他の自治体の資料館等と連携し、互いの地域の歴史文化的イベントを充実させているのは、今後のこの種の事業の在り方を示唆している。高く評価したい。かんだ郷土史研究会の支援は大きいので、引き続き会員の勧誘の支援をお願いしたい。	
	達成度	4																														
	3		○																													
	2																															
	1																															
↑		1	2	3	4																											
② 地域の文化財整備として周辺住民による遺跡管理の推進	国・県・町指定文化財がある各区の住民による草刈・樹木の伐採を中心とした遺跡管理の委託をおこなった。また、かんだ郷土史研究会による町内文化財パトロールの委託をおこなった。	<table border="1"> <tr><td>達成度</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>→ 有効性</p>	達成度	4					3		○			2					1				↑		1	2	3	4	継続	住民や郷土史研究会が文化財保全の主役となる活動は、今後も維持していただきたい。住民による遺跡管理は、遺跡に対する関心を高めるので、参加する住民の層を広げる試みを行い、継続・発展させてほしい。		
達成度	4																															
	3		○																													
	2																															
	1																															
↑		1	2	3	4																											

1-3 子ども・子育て支援の充実 (生涯学習課)

目指す姿 安心して子育てができる環境が整っています。

評価事業の項目		教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント	
		事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性		
1 放課後の居場所づくり(児童)	(1) 放課後児童健全育成事業の充実	① 学童保育の待機児童の縮減	待機児童数は9名であったが需要は増加している。与原小学校内に放課後児童クラブを創設し、2支援(定員80名)が開始された。また、荇田小学校内での創設に向けて予算確保を行った。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	拡充	ニーズの高いジャンルであり、待機児童がゼロになるよう一層充実させていただきたい。今後も予算も含めて待機児童数0を目指してほしい。
		② 学童保育の定員数の確保	町内施設の定員は308名であったが、与原小学校内に放課後児童クラブを創設し定員は388人となった。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	拡充	学童保育の定員数を増やす施策を具体的に実行に移しているのは高く評価できる。今後も迅速な対応をお願いしたい。
		③ 放課後子どもひろばに登録して放課後を過ごしている児童の増加	参加児童延べ人数は13,370人で長期休暇や非常事態宣言中は開催できなかった。	<p>達成度 ↑</p> <p>→ 有効性</p>	継続	登録児童数自体も300人を超えているとのことだが、安全等に一層配慮され、開催ニーズに役立てていただきたい。 非常事態宣言中、子ども広場が開催できないときの子どもの過ごし方の把握をお願いしたい。

5. 学識経験者意見

令和4年9月1日
菟田町教育委員会外部評価委員
委員長 井上 宣江
委員 田代 武博
委員 橋内 政和

令和4年8月1日、菟田町教育委員会より「令和4年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価」の外部評価委員として委嘱を受け、上記委員3名でその執務に当たりました。「菟田町教育委員会外部評価委員会設置要領」に基づき、令和3年度の活動について、教育委員会が自己点検・評価を行った内容に対し、2回の「外部評価委員会」にて質疑応答や意見交換を行いました。その後、下記のようにまとめたものを述べさせていただきます。

1 教育委員会の活動状況に関する所見

(1) 菟田町教育委員会会議の運営、公開、首長との連携、教育委員の自己研鑽等について

定例会を9回開催したことに加えて、臨時会を4回開催し、緊急を要する案件の審議等を行うなど、コロナ禍にもかかわらず、安定した協議が実施できている。なかでも、教育行政施策や放課後児童クラブ指定管理者の指定について審議が計画的に行われていることが確認できる。会議の公開は、町掲示板への告示とホームページによる案内が行われており、公開について努力が行われていると言える。首長と教育委員会で構成する総合教育会議についても、多岐にわたる重要な案件に対して協議が実施されている。教育行政の質的向上に向けた教育委員の研鑽は、京築地区の研修会において本町の実践を発表したり、県や全国の研修会にはオンラインで参加したりと充実した取り組みが行われている。研鑽の成果を教育施策に反映されることを期待したい。

(2) 教育委員会が管理・執行した事務について

菟田町教育大綱である「第5次菟田町総合計画」（前期基本計画：令和3年～7年度）に掲げられた基本方針及び基本事業を推進するにあたって教育委員会が管理・執行する本年度の菟田町教育施策について審議し、策定を行っている。今次改訂の学習指導要領は、変化の激しい時代の中で児童・生徒の「生きる力」の育成を目指している。菟田町の教育施策は、その理念を確実に推進する内容である。それに準じて、教育委員会規則等の整備、法改正や教育施策の内容に応じた条例や予算などの改正・原案の決定、組織の見直し等、柔軟かつ適切な改善が行われている。

2 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務に関する所見

(1) 1-1 学校教育の充実

令和3年度もコロナ禍への対応の一年であり、コロナ禍における学校教育をいかに効果的に進めるか新しい考え方を試行しながら変化に対応していく一年でもあった。荇田町教育委員会では迅速に新しい考え方を試行しながら変化に対応していったと思う。また、令和3年度は義務教育段階において、すべて新学習指導要領にもとづく教育活動が実施されることとなった。今次改訂の学習指導要領の理念は、「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学び」という教育内容と教育方法の両輪で「生きる力」の育成を目指すものである。荇田町では、町独自の学力向上策をコロナ禍の中でも更に質の高いものに発展させている。特に小中一貫した授業づくりと教職員の資質・指導力の向上に向けた確かな推進力は目覚ましいものがある。更に、これからの教育においてますます必要とされる児童生徒のICT活用力の育成及び教員のICTを活用した授業づくりの向上についても教育委員会として、内容と方法を明確にして推進している。有効な施策を着々と進めていると言うことができる。以下に成果があった取組と改善や見直しが必要な取組について述べる。

[成果があった取組]

1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成

○「学力の向上を目指す授業づくりの推進」

この取組を推進するに当たって、町雇用の教育活動支援員8名を配置した。これにより、少人数指導・専科指導が可能となり、一人一人に目が行き届く教育と専門性の高い教育を行うことができた。達成度・有効性ともに最高の4と自己評価されていることは妥当である。次に、町独自の小・中一貫した授業モデルの基本形とその活用の在り方を交流する学力向上推進プロジェクト会議を定期的開催した。これにより、町全体の小・中学校が授業づくりにおいて同じ目標に向かうことができ、学力向上に確実に迫ることができる。定期的開催としたことが意義深い。今後、プロジェクト会議の内容が一人一人の教員に届くように発展させていってほしい。

○「教師の資質・指導力の向上」

学力向上のためには、「教師の資質・指導力の向上」は不可欠である。そのための取組として、教育委員会が各学校を訪問して学力検証改善サイクルの確立のためにヒアリングを行い、授業改善を進めている。このことで、成果と課題の分析が進み、学校現場のみでは見えない改善策が明確になる有効な取組である。

次の取組は、小・中の教員が相互に町内他校の校内研修会に参加する事業である。例年と比較すると令和3年度は参加数が伸びている。教育委員会の働きかけの成果である。優れた学習指導を参観することが教員の学びにつながるので、有効性4に高めることを期待したい取組である。

○「生きる力の育成」

新学習指導要領の「生きる力」の理念は、どんなに予測困難な時代になっても自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力、明るい未来を共に創っていく力のことである。荻田町では「規範教育」「道徳教育」「体育」に力を入れている。また、学級の人間関係分析ツールのQ-U調査を実施し、人間関係を改善して、明るい未来を共に創っていく力の育成に活用している。町では今後も拡充する意図があるので、更に発展させてほしい。

○「外国語教育の充実」

ますますグローバル化する状況にあって、外国語教育の充実は欠かせない。そのための取組として、町雇用の外国語指導助手(ALT)を4名に増員したことは、ネイティブスピーカーに接する機会を増やす取組みで意義深い。有効性も達成度も自己評価は最高の4となっていることは妥当である。

2 ICT活用教育による学びの質の向上

ICT活用教育は、多様性のある学習環境や専門性の高い授業の実現など質の高い学習の実現に資することが期待される。荻田町では、デジタルドリルやデジタル教科書、授業支援ソフト等の整備を行い、かつICT担当係員を2名配置し、ICTを活用した授業づくりを推進している。その他に、ICT支援員(外部委託)の配置を行い、学校における日常的なサポートを行うことで利活用の推進をしている。有効性も達成度も最高の4と自己評価されているのは妥当である。

3 教育環境の整備

○「危機管理体制の強化」

学校におけるコロナ感染症拡大に適切に対応するため、ガイドラインの策定をした。このガイドラインにより、学校はスムーズに保護者や関係者に対応できるようになった。これは、有効性も達成度も自己評価は最高の4となっている。また、環境整備のスクールサポートスタッフの配置を行い、校舎内の消毒作業を行ったことは、安心・安全な学校づくりにつながったと考える。

○「特別教室への空調整備」

これまで特別教室は空調が未整備であったので、夏季は熱くて学習効率が悪かったが、非常に快適になった。校舎修繕改修については、老朽化への対応、危険個所の整備・補修は迅速に行われている。有効性も達成度も最高の4の自己評価は妥当である。

4 学校・家庭・地域の連携と協働

○「校区パトロールや声掛け運動の実施」

学校、地域、関係機関が連携し、登下校時等の見守り活動に尽力している。長年継続して活動が行われているということは、地域の方々の協力体制が根付いてきているからであり、教育委員会の支援や働きかけを高く評価したい。

○「コミュニティスクールの実施に向けた試行」

関係者への理解を進める取組が少しずつ前進していて、地域とともにある学校づくりが実現に向けて動き出していることが伺える。その制度のよさが生かされるものになるよう、更に学校・地域と協議を重ねながら推進してほしい。

5 多様性を踏まえた教育の実践

今次改訂の学習指導要領では、一層多様性が高まる社会において、新たな価値を創造する力を育むために、多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力を伸ばしていくことが強く求められている。苅田町では特別支援教育の推進、いじめ・不登校への対応、国際理解教育の推進の3つを大きな柱として推進している。そのために、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや専門機関との連携強化、更に学校生活支援員の十分な配置をしている。また、苅田町は外国人が居住する割合は福岡県でも上位にあり、帰国・外国人児童生徒の日本語指導のために2名の指導員を雇用している。高く評価したい。

〔改善や見直しが必要な取組〕

●働き方改革の推進として、タイムカード導入や校務支援システムによる教育財産の共有化、ミート機能での打合せなど勤務時間削減のための業務のデジタル化を推進しているのは大変効果があると思う。しかし、教員が対応している業務の中には本務以外も多いことを念頭に、更に見直ししなければならないことは何か調査し、学校が変えるべきところ、教育委員会として支援した方がよいところを見極めていくことも重要ではないかと考える。

(2) 1-2 生涯学習の充実と文化の振興

令和3年度もコロナ禍にあり、事業実施が困難な状況のもとで、生涯学習としての「学び」を止めないための条件整備に速やかに着手され、一部の事業を除き令和3年度の事業を年間を通して実施したことは評価に値する。施設を開館し、事業の実施を模索された努力に敬意を表したい。特にオンライン環境の整備で実施した図書館サービスは、町民の新しい学びの方法を広げることができた。コロナ後の社会教育・生涯学習のあり方が見えてきたことは高く評価される。以下に成果があった取組と改善や見直しが必要な取組について所見を述べる。

〔成果があった取組〕

1 学習機会の充実

○「年代や目的に応じた講座・教室の開催」

コロナ禍により、事業実施が困難な状況であったと推察するが、生涯学習としての「学び」を止めないために、感染防止対策を取りながら真摯に取り組まれていることに敬意を表したい。昨年度と比較すると回数、参加数ともに伸びている。中には倍増している講座もある。参加数が伸びた背景には、講座内容が充実していることに加え、広報誌やホームページによる公民館活動の情報提供に力を入れていることがある。住民はこの情報を期待していると聞く。有効性4、達成度4と自己評価されており、これは妥当であると考えられる。

○「地域活動指導員の活用」

地域活動指導員による通学合宿事業や子ども会活動の支援は活発に行われている。開催者側の積極的な姿勢が伺われ、子ども達の自立の基礎を養う取組になったと思う。有効性4、達成度4と自己評価されており、これは妥当であると考えられる。

2 生涯スポーツの推進

スポーツ施設の老朽化にともなう整備を計画的に行っているため、町民が快適に施設を利用できていると考える。温水プールは、130日間休館して約4万名の利用者がいるのは、依然として利用者は多いといえる。水質管理を厳重にし、更衣室等の感染防止対策を行い、注意喚起を頻繁に行う努力をしている。

3 図書館サービスの充実

○「利用しやすい環境づくり」

利用しやすい環境づくりとして、有効性・達成度ともに4と自己評価されているのは、祝日開館、春夏秋冬休み期間中の月曜開館、午後7時までの開館時間延長である。これらは、子どもから大人まで、幅広い年代層にとって大変利用しやすいものとなっている。自己評価は妥当である。

○「利用者の拡大」

令和3年8月から開始した電子図書サービスは、図書館に行くことができない利用者にとって大変有難いサービスである。家に居ながらにして多数の図書の中から選ぶことができる。インターネットを駆使できる高齢者が増加してくるこれからの世の中でますます需要が高まり、新しい層に利用者が拡大すると考える。また、コロナ禍により、閉館されても利用することができる。その他には、おはなし会、ブックリサイクル等のイベントも地道に継続されている。今後も継続・発展させてほしい。

4 文化財の保護と活用

○「国・県・町指定を中心とした文化財の調査と整備」

町内の文化財の現状をよく把握し、必要な対応が速やかに行われている。特に、令和3年8月豪雨により崩落した国指定重要無形民俗文化財である等覚寺の松会を行う松庭の復旧工事を早急に行い、大事な文化財を保護するための必要な対応が速やかに行われている。

○「無形民俗文化財の記録保存」

最新の記録保存・管理のノウハウを活かして、町内の文化財の保護管理業務が遂行されている。等覚寺の松会については写真映像として記録保存が着実に進んでいる。県指定の荇田山笠については、山笠のHPもあり、写真映像も多く残されている。有効性、達成度ともに4と自己評価されているのは妥当である。

○「文化財情報の発信」

HPや広報で文化財情報を積極的に発信している。町民はそれらの情報に触れることで、荇田町の歴史・文化・自然に興味をもち始めるだろうと思う。情報発信の一環として行われた歴史講演会等はコロナ禍に拘わらず昨年度より多くの町民が参加している。講演会等は今後拡充することが望まれる。

○「歴史案内ボランティアや周辺住民による遺跡管理の推進」

周辺住民による遺跡管理、かんだ郷土史研究会による文化財パトロールの委託は、地域住民とともに守る意識が広がり、有効だと思う。今後もこの事業を継続していくには、この取組を広く町民に知らせるとともに、この事業に賛同する人々の広がりを作っていく試みも大切だと思う。

〔改善や見直しが必要な取組〕

●世界情勢を見ると、新型コロナウイルスにより、一度止まったスポーツ活動も、ガイドラインの策定を行い、感染症対策を踏まえながら再開し始めた。荻田町のスポーツイベントや公民館まつり等がコロナ感染拡大防止のために中止になったが、これからは、どんな状況にも柔軟に対応して実施する方策が必要ではないだろうか。

(3) 1-3 子ども・子育て支援の充実

学童保育の需要は増加する中、待機児童の縮減に向けて具体的に実行に移しているのは高く評価できる。子ども・子育て支援の充実は、若い世代が集まる元気な町づくりの一環として、これからも取組を進めてほしい。

〔成果があった取組〕

1 放課後児童健全育成事業の充実

○「学童保育の待機児童の縮減」

働く保護者が年々増えつつある状況の中、学童保育の定員数が増えたことは低学年の学童を持つ保護者にとって安心材料である。具体的に実行に移しているのは高く評価できる。有効性、達成度ともに4と自己評価されているのは妥当である。

〔改善や見直しが必要な取組〕

●「放課後子どもひろばに登録して放課後を過ごしている児童の増加」

登録児童数が300人を超えているとのことだが、非常事態宣言中、子ども広場が開催できないときの子どもの過ごし方の把握をお願いしたい。

6. 資料等

○関係法令 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（事務の委任等）

第二十五条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

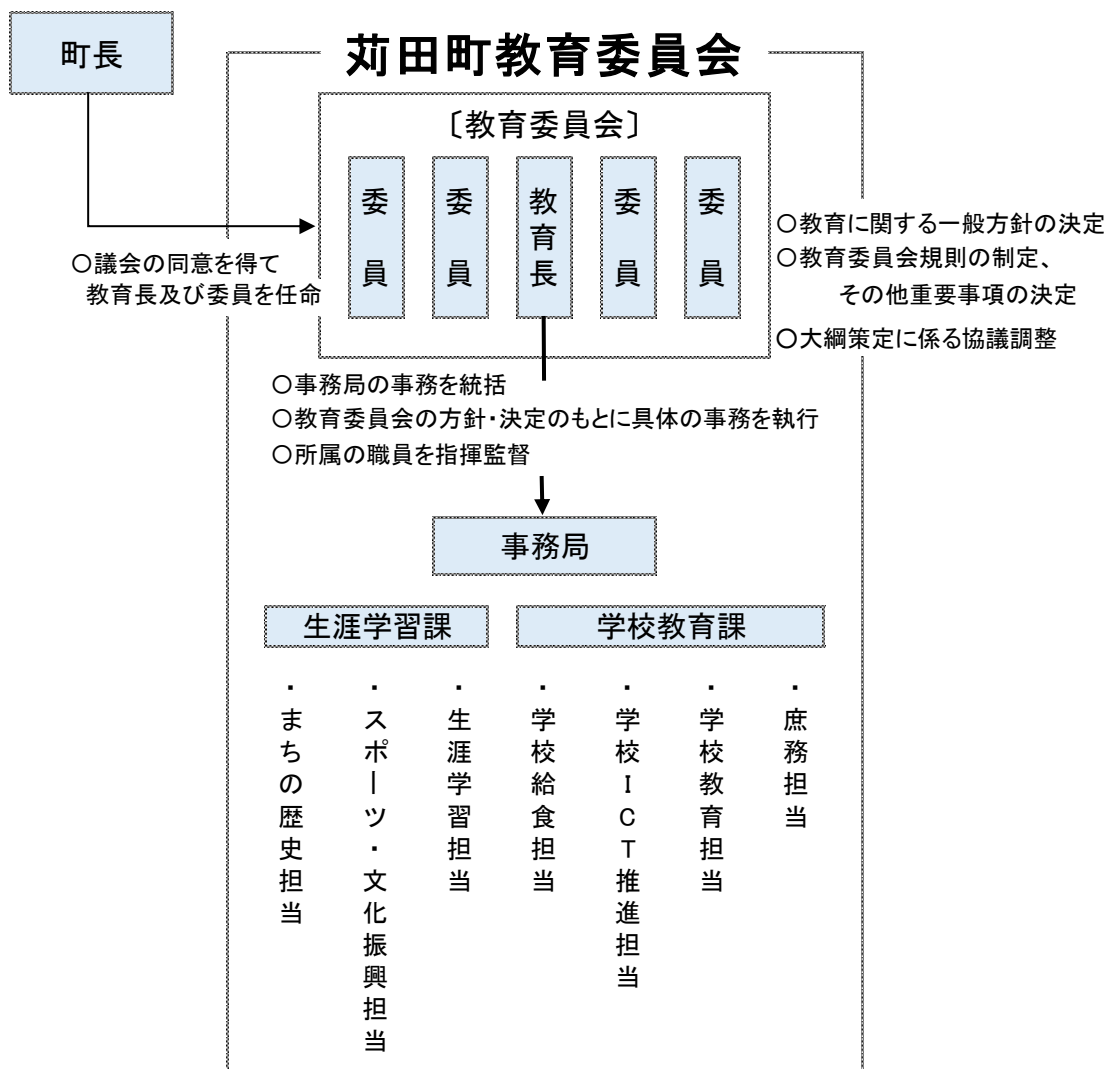
- 2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。
 - 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
 - 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
 - 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
 - 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
 - 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
 - 六 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。
- 3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。
- 4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当っては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○苧田町教育行政の仕組み



○町の教育施設等

〔学校施設〕

学校名	所在地	児童・生徒数 (R4.5.1現在)
苧田小学校	苧田町神田町2丁目9-12	634
馬場小学校	苧田町大字馬場558	374
南原小学校	苧田町富久町1丁目4-9	366
与原小学校	苧田町与原3丁目7-5	716
片島小学校	苧田町大字上片島1504	40
白川小学校	苧田町大字稲光357	70
苧田中学校	苧田町大字提2975-1	544
新津中学校	苧田町新津1丁目6-1	431
学校給食センター	苧田町磯浜町2丁目2-9	—
教育支援センター	苧田町富久町1丁目19-1(すみれ教室)	—

〔生涯学習施設〕

学校名	所在地
町立図書館	苧田町富久町1-17-8
三原文化会館	苧田町富久町1丁目19-1
歴史資料館	苧田町富久町1丁目19-1
中央公民館	苧田町京町2丁目5番地
北公民館	苧田町若久町1丁目3-7
小波瀬コミュニティセンター	苧田町新津1丁目10-1
西部公民館	苧田町大字鋤崎481-1
総合体育館	苧田町殿川町1-30
臨海総合グラウンド	苧田町長浜町46
町民温水プール(スイマー)	苧田町殿川町1-160